



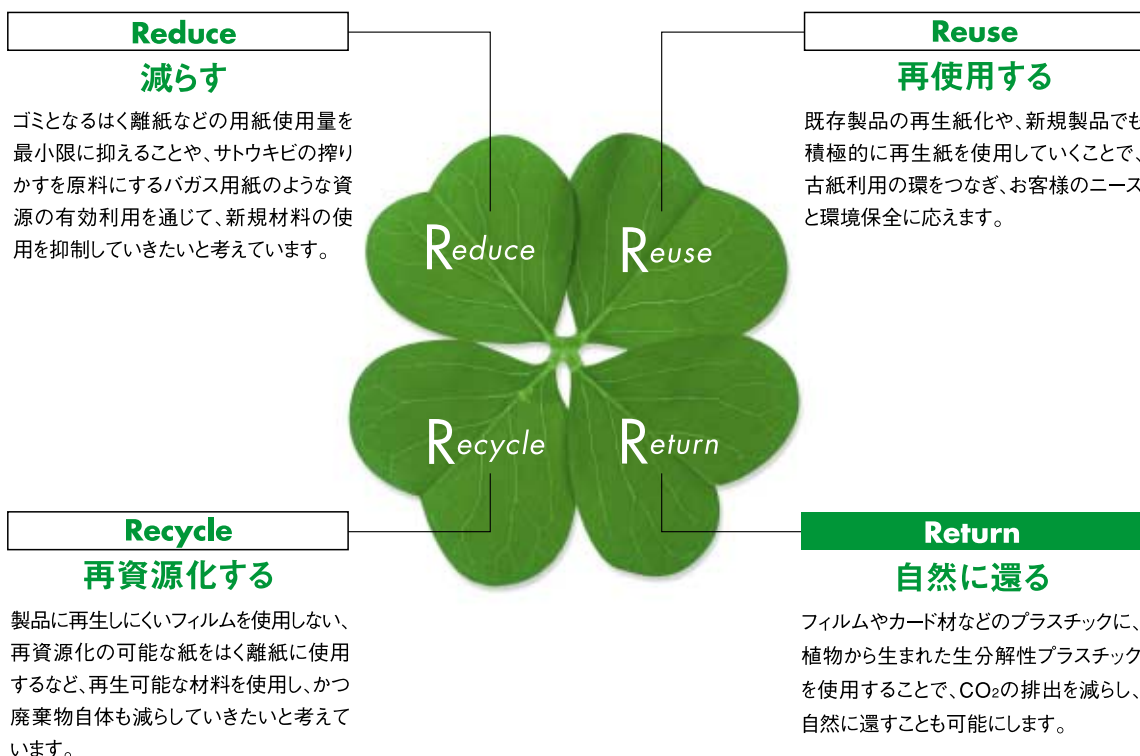
Environmental Report 2008

TOPPAN FORMS

トッパンフォームズの製品開発は「4R」がキーワードです

地球環境を守るキーワードは「3R (Reduce=減らす、Reuse=再使用する、Recycle=再資源化する)」です。

トッパンフォームズでは、3RにReturn (還る)を加えた「4R」の実践に取り組んでいます。



CONTENTS

ご挨拶	1
Corporate file	2
環境方針	4
環境マネジメント	5
環境目標	8
マテリアルバランスと環境影響	10
環境に配慮した製品・サービス	11
研究・開発	15
環境パフォーマンス	16
グリーン調達・購入	19
環境コミュニケーション	20

報告対象範囲 (集計範囲) 2007年度 ※一部期間外の情報を含みます。

- トッパン・フォームズ株式会社
 - 本社ビル
 - 中央研究所
 - 生産事業所：日野工場、福生工場、川本工場、TFCP製造部、八戸工場、新潟工場、辰巳センター、仙台センター、EPSセンター
- 関係会社 (国内のみ)
 - トッパン・フォームズ東海株式会社 (TFT)
 - トッパン・フォームズ関西株式会社 (TFK)
 - トッパン・フォームズ西日本株式会社 (TFN)
 - トッパン・フォームプロセス株式会社 (TFP)
 - トッパン・フォームズ・サービス株式会社 (TFS)
 - 北海道トッパン・フォームズ株式会社
 - 山陽トッパン・フォームズ株式会社
 - 香川ビジネスフォーム株式会社
 - 沖縄ビジネスフォーム株式会社

本文中の「生産事業所」は、上記の生産事業所と中央研究所、関係会社の生産事業所を含む。また「事業所」は、生産事業所と事務所を含む。

ご挨拶



当社は、ビジネスフォームやデータ・プリント・サービスなどの紙媒体とICやRFIDなどの電子媒体の供給を通して、時代のニーズを先取りした総合的な情報管理サービスを提供してきました。

そして、情報活用に最適なソリューションをご提供する「Information Solution Company」として、お客様とともに持続可能な発展を目指しています。特に環境に配慮する取り組みは当社ばかりでなく、お客様にとっても重要な経営課題のひとつとして位置づけられるようになってきました。当社としましては、事業所ごとに環境マネジメントシステムを構築し、廃棄物削減、省エネルギーなどの環境負荷低減に計画的に取り組んでいます。ISO14001認証取得は13事業所となりました。すべての生産事業所では、社内環境監査を実施して、環境目標の達成状況、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価しています。

環境保全活動の推進にあたっては、それぞれの活動分野で、中期目標と単年度ごとの目標を設定し、その達成に向けてグループ全体で努力しています。2008年度には、現在の中期目標の達成期間を2010年度まで延長して目標値を再設定しました。

環境に配慮した製品の開発においては、開発方針の柱として「4R（Reduce、Reuse、Recycle、Return）を掲げ、積極的にその実践に取り組んでいます。環境配慮型製品の開発では、2007年度に発覚した一連の再生紙偽装問題に適切に対応するため、古紙配合率の確認と環境に配慮した代替用紙の確保に努めました。お客様に対しましては、ご心配とご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。今後は、森林の適切な管理と保護に貢献するFSC COC認証の認定事業所を拡大し、より一層環境に配慮した製品を提供できる体制を整備していきます。

当社は、これからも積極的に環境負荷低減に努め、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えます。本報告書を通じて当社の環境保全活動についてご理解をいただき、ご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長

櫻井 醜

Corporate file

会社概要

社名 トッパン・フォームズ株式会社
TOPPAN FORMS CO.,LTD.

所在地 本社：東京都港区東新橋1-7-3

設立 1955年5月

資本金 117億5,000万円

売上高 2,285億円(2008年3月期連結)

従業員数 6,641名(2008年3月末現在連結)

営業内容 ビジネスフォーム(帳票)、データ・プリント・サービス(DPS)、RFID・ICカードおよび関連機器、eビジネス、フォームプロセッサ、オフィスサプライ、コンピュータシステム要員派遣、コンピュータ周辺機器保守サービス、マイクロカプセル

主要事業所および工場

本社、営業統括本部、製造統括本部、東日本事業部、中部事業部、関西事業本部、中四国事業部、西日本事業部、中央研究所、日野工場、福生工場、川本工場、TFT浜松工場、TFT静岡工場、TFTメディア工場、TFK大阪工場、TFK摂津工場、TFN九州工場

トッパンフォームズ企業グループ(国内)

トッパン・フォームズ東海株式会社
トッパン・フォームズ関西株式会社
トッパン・フォームズ西日本株式会社
トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社
トッパン・フォームプロセス株式会社

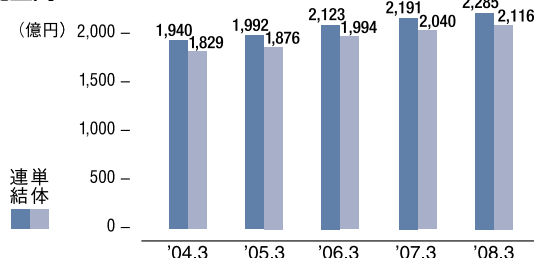
テクノ・トッパン・フォームズ株式会社
トッパン・フォームズ・サービス株式会社
北海道トッパン・フォームズ株式会社
山陽トッパン・フォームズ株式会社
香川ビジネスフォーム株式会社
沖縄ビジネスフォーム株式会社
株式会社ジクシス
株式会社 ティエフ メディエイト
[凸版印刷株式会社](#)

トッパンフォームズ企業グループ(海外)

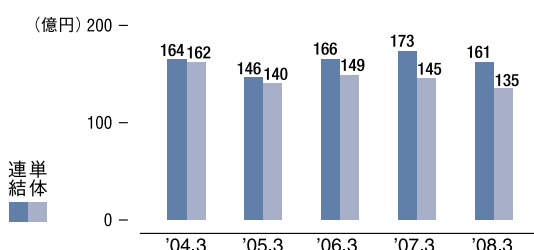
T.F.カンパニー社〔香港〕
トッパン・フォームズ(香港)社
トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社〔香港〕
トッパン・フォームズ・コンピュータ・システムズ社〔香港〕
北京トッパン・フォームズ社
北京三盾証卡技術有限公司
深圳瑞興紙業有限公司
トッパン・フォームズ・インフォメーション・システムズ(上海)社
マンソン・コンピュータ・フォーム社〔マカオ〕
トッパン・フォームズ(シンガポール)社
CFMトッパン・フォームズ(マレーシア)社
データ・プロダクツ・トッパン・フォームズ社〔タイ〕
トッパン・フォームズ(コロンボ)社
トッパン・フォームズ(アメリカ)社

財務情報

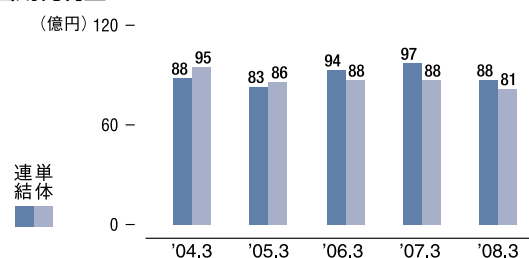
売上高



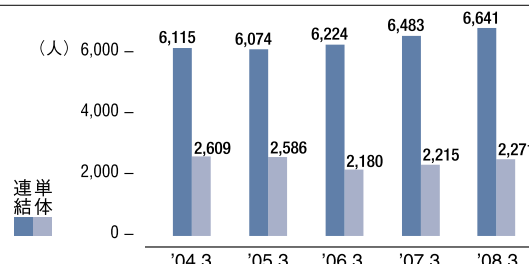
経常利益



当期純利益



従業員数



トッパンフォームズ国内ネットワーク



環境方針

トッパンフォームズ 環境理念・方針

当社は、経営信条「三益一如」のもとで企業活動を行っています。地球環境保全についてもこの信条に基づいた「環境に関する基本理念」を制定し、さまざまな活動に取り組んでいます。

基本理念

トッパンフォームズは、
地球環境の保全が、人類共通の重要課題である事を認識し、
企業としての社会的責任を果たすために、
適切な施策を全社的に、継続的に展開してまいります。

方針

1. 「環境の確保と社員の意識高揚」

地球環境保全活動を推進するため、社内体制を整備し、社員の環境保全意識の向上を図ると共に、環境保全活動への参加を積極的に支持奨励します。

2. 「省資源・省エネルギー・リサイクルの推進」

地球資源確保のため、材料・生産エネルギーのロスを削減し、リサイクル可能な材料の購入等により、省資源・省エネルギー・資源のリサイクル化を推進します。

3. 「法規制の遵守」

環境関連の法規制を遵守することはもとより、自主基準を定め、環境保全に努めます。

4. 「廃棄物の削減・環境汚染の防止」

オゾン層破壊物質、地球温暖化物質、有害物質など環境に負荷を与える物質を、代替技術・代替物質への転換などにより可能な限り削減し、環境汚染の予防に努めます。

5. 「エコ商品の開発・販売」

環境負荷の少ない、環境保全に役立つ商品および技術の開発に努めます。

経営信条〈三益一如〉

社会益：私たちは事務革新のパイオニアとなり日本経済発展のために寄与いたします。

会社益：私たちは事務革新のパイオニアとなり会社の発展向上のためにつくします。

個人益：私たちは事務革新のパイオニアとなり自分の幸福を築くために頑張ります。

環境マネジメント

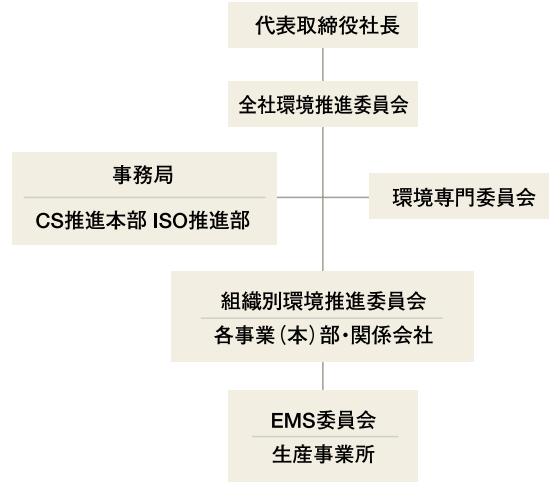
マネジメントシステムと体制

当社グループにおける環境保全活動を継続的に推進するために、「**全社環境推進委員会**」、「**環境専門委員会**」、「**組織別環境推進委員会**」および「**EMS*委員会**」を設置しています。この環境組織は、代表取締役社長および全社環境推進委員長が管轄し、事務局が運営を行っています。

当社グループの主要工場ではISO14001の認証を取得し、それ以外の生産事業所では社内EMS構築指針に基づく社内EMSを構築して目標達成に向けた活動を推進しています。

* EMS (Environmental Management System) : 環境マネジメントシステム

マネジメント体制



ISO14001 認証取得状況

当社グループでは、研究所・工場を中心に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得（認証機関：JQA）を進めています。

2001年6月に日野工場で認証取得したのを皮切りに、2007年度は、トッパン・フォームズ関西（株）本社・江坂センターが新たに認証を取得しました。また、トッパン・フォームズ東海（株）では、2004年8月に認証を取得していた名古屋工場のマネジメントシステムを拡大し、浜松工場・静岡工場・メディア工場を含めた全社統合認証を取得しました。

ISO14001 認証取得状況

事業所名	登録日
日野工場	2001/6/8
福生工場	2004/2/13
開発研究所 *1	2004/3/26
TFT（名古屋・浜松・静岡・メディア工場）	2004/8/6 *2
TFK大阪工場	2004/12/17
TFN九州工場	2005/1/28
TFK摂津工場	2006/3/31
川本工場	2006/8/4
TFK神戸工場	2006/9/1
TFK本社・江坂センター	2007/4/27

*1 「開発研究所」は中央研究所を含むISO14001認証取得対象組織です。
*2 日付は名古屋工場の認証取得日です。

ISO14001 認証取得担当者のコメント



2005年11月に品質の規格であるISO9001を認証取得し、引き続き14001の認証取得活動を推進していく中で、従業員の環境活動に対する意識も高まってきました。今後は更なる環境負荷の低減を目指し、業務の改善・効率化を図ります。さらに企業としての社会的責任を果たすべく、マネジメントシステムの充実を目指していきます。

トッパン・フォームズ関西（株）
管理部管理グループ 真崎 伸吾（左） 戸田 芳郎（右）



2007年8月にトッパン・フォームズ東海（株）の4事業所（名古屋・浜松・静岡・メディア工場）は、先に認証取得した名古屋工場の環境マネジメントシステムを拡大して、全社統合認証を取得しました。全社同一のシステムで運用するメリットを活かして、エネルギー使用量や廃棄物排出量削減などの環境負荷低減を図り、環境に優しい企業を目指して継続的な改善を進めていきます。

トッパン・フォームズ東海（株）品質管理部
（左から）篠田 昌宏（名古屋工場）、中村 幸男（静岡工場）、小澤 弥和（浜松工場）、横田 明（メディア工場）

環境教育

当社グループでは、新入社員全員を対象に、環境に関する基礎知識の習得や意識向上を目的とした集合研修を実施しています。社員に対しては、通信教育に環境関連の知識を習得できるコースを設けて、環境活動に対する自己啓発を促すようにしています。各生産事業所のISO事務局に対しては、レベルアップを目的とした年2回の集合研修を実施しています。

各生産事業所では、各々の事業内容に応じた環境教育を実施しています。

また環境に関する法令改正などの情報提供や環境保全に関する意識向上のために、全社に「環境情報」を発信しています。



環境教育の様

環境教育の実施状況

- 環境研修
- ISO事務局研修
- 事業所での実施例
 - ・ 環境管理システムに関する教育
 - ・ 環境遵法研修
 - ・ 朝礼時のワンポイント教育

環境監査

当社グループすべての生産事業所に対し、社内環境監査を年1回実施しています。

監査は本社CS推進本部ISO推進部が主管し、対象事業所の環境目標の達成状況、環境関連法規制の遵守状況などを確認・評価します。監査は、社内認定試験に合格し登録されている監査員が実施します。

2007年度の環境監査では、116件の指摘事項がありました。主な指摘事項は次の通りです。

- ・ 改善対策が、計画通り実施されていない
- ・ 社内管理基準の超過実績がある
- ・ 環境目標の進捗管理が不十分である

各生産事業所は監査員が提出する「改善要望書」の指摘事項に対して、真摯に改善活動に取り組んでいます。



環境監査の実施状況

法規制遵守

各生産事業所の法規制遵守状況は、社内環境監査によるヒアリングおよび現場査察により確認を行っています。

2007年度は、特に問題はありませんでした。

環境会計

当社グループでは、2001年度実績より環境会計を導入し、環境保全にかかるコストとその費用対効果の把握に活用しています。

環境会計の機能は、内部機能と外部機能があります。内部機能は、費用対効果を明確にし、環境効率の向上を図り、環境投資などの環境経営の判断材料として経営意思決定に役立てることです。外部機能は、企業の環境保全への取り組み状況を定量的に公表するシステムとし

て、利害関係者の意思決定に影響を与える機能を果たすことです。2006年度実績より集計および情報公開方法を見直し、集計結果は「環境保全設備投資額」として表しています。

・集計範囲／トッパン・フォームズ株式会社11事業所と関係会社9社

・集計期間／2007年4月～2008年3月

環境保全設備投資額

(単位：千円)

項目	2005	2006	2007	増減 (当期－前期)
(1) 公害防止設備投資額	12,947	38,976	12,824	－26,152
(2) 地球環境保全設備投資額	4,485	4,950	4,950	0
(3) 資源循環設備投資額	0	11,000	11,920	920
(4) 管理活動設備投資額	0	22,583	21,963	－620
合計	17,432	77,509	51,657	－25,852

環境保全設備投資額

2007年度の環境保全設備投資額は総額51百万円となりました。内訳として、公害防止設備投資額では、浄化槽設備や排水設備などの導入が完了し、前年度より26百万円減少しました。資源循環設備投資額は紙片処理装置の導入を継続し、前年度と同様の実績を残しています。その他の項目についても、前年度と同様の実績となりました。投資額全体としては、前年度よりも26百万円減少しています。

今後の取り組み

環境保全設備投資に焦点をあてることによって、より精緻化した算定方法を確立し、費用対効果把握の精度を上げ、環境経営の実践に一層役立つ環境会計の運用を目指します。

環境目標

中期目標と 2007年度の目標・実績

当社グループでは、2008年度までの中期目標と単年度ごとの目標を設定し、その達成に向け環境保全活動を推進しています。

2007年度の環境目標については、多くの目標を達成することができました。

廃棄物削減ではゼロエミッションと廃棄物最終埋立量、エネルギー使用量削減ではエネルギー使用量原単位、化学物質管理ではPRTR法第一種指定化学物質の使用量

削減において目標を達成することができました。しかし、廃棄物排出量原単位の削減目標については未達成に終わりました。

2007年度に発覚した再生紙偽装問題は、当社の環境目標にも大きな影響がありました。環境配慮型製品の開発と販売促進については、該当する製品の認定を取り消すなどの対応をしたため販売額は減少しました。また、グリーン調達においても多大な影響があり、実績に関する評価はできませんでした。

中期目標については、廃棄物排出量原単位、廃棄物最終埋立量および化学物質管理において目標を達成しました。

2007年度の環境目標と実績

中期目標	2007年度環境目標	2007年度実績	評価
環境マネジメント			
ISO14001を2008年度までに10生産事業所で取得	ISO14001を4生産事業所で取得	ISO14001を4生産事業所で取得 (2007年度までに13生産事業所で取得し中期目標を達成)	○
海外生産事業所における環境保全活動の積極的推進	現地における環境保全活動の推進	環境影響調査の実施	○
法規制を包含した適切な社内管理基準の設定と遵守	生産事業所における管理基準の遵守 →社内環境監査による確認	28生産事業所に監査を実施し、管理状況を確認	○
廃棄物削減			
廃棄物排出量原単位(廃棄物排出量/生産高)を2008年度までに2003年度比10%削減	廃棄物排出量原単位を2006年度比2%削減	2006年度比0.8%削減 (2007年度で2003年度比10.7%削減し中期目標を達成)	×
ゼロエミッションを2008年度までに生産事業所すべてで実現(ゼロエミッション=廃棄物リサイクル率98%以上)	ゼロエミッションを15生産事業所で達成	16生産事業所で達成	○
廃棄物最終埋立量を2008年度までに2003年度比60%削減*1	廃棄物最終埋立量を2006年度比5%削減	2006年度比26.7%削減 (2007年度で2003年度比60.4%削減し中期目標を達成)	◎
エネルギー使用量削減			
エネルギー使用量原単位(エネルギー使用量/生産高)を2008年度までに2003年度比10%削減	エネルギー使用量原単位を2006年度比2%削減	2006年度比2.1%削減	○
化学物質管理			
PRTR法*2第一種指定化学物質の使用量を2008年度までに2003年度比30%削減	PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2006年度比3%削減	2006年度比37.8%削減 (2007年度で2003年度比53.5%削減し中期目標を達成)	◎
環境配慮型製品の開発・販売強化			
環境配慮型製品の開発・販売促進活動の推進	環境配慮型製品販売額を2006年度比10%増加	2006年度比で微増であったが、再生紙偽装問題発生により一部の環境配慮型製品の登録を取り下げたため25%減少	—
グリーン調達推進			
グリーン調達の推進	グリーン調達基準に基づき推進	グリーン調達基準に基づき実施したが、再生紙偽装により影響大	—
コミュニケーション			
情報公開の促進	環境報告書の発行	環境報告書2007を発行	○
社会貢献の推進			
社会活動に参加し、環境保全に積極的に貢献	地域の環境保全活動への参加	各事業所で地域の行事への参加および清掃などを実施	○

(評価基準 ◎：目標を大幅に超えて達成できた ○：目標を達成できた ×：実施したが目標達成できなかった —：外的要因が大きく評価から除外した)

*1 廃棄物最終埋立量の中期目標については、目標値である30%削減を2006年度に達成しましたので60%削減を新たな目標値としました。

*2 PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR=Pollutant Release and Transfer Register)

中期目標と2008年度の目標

当社グループの中期目標は、達成年度を2008年度に設定していますので、今年度が最終年度となります。次期中期目標については、環境保全に関する世の中の動向を見ながら、当社の環境方針に基づいて策定する必要があります。また、凸版印刷（株）と当社の中期目標を整合させることで、グループとして効率的に環境活動を推進することができます。

そこで、現在の中期目標の達成期間を2010年度まで延長して目標値を再設定し、凸版印刷（株）の中期目標の達成期間と整合をとりました。さらに、「エネルギー使用量原単位削減」を「CO₂排出量原単位削減」に変更し、地球温暖化防止を第一番目の目標にしました。またゼロエミッションについては「生産事業所すべてで実現」から「当社グループでゼロエミッション達成」に変更しました。なお、環境マネジメントのISO14001認証取得については、2007年度までに目標事業所数を大幅に超えて達成しましたので、今後はシステムの継続的な改善を推進していきます。

2008年度の環境目標

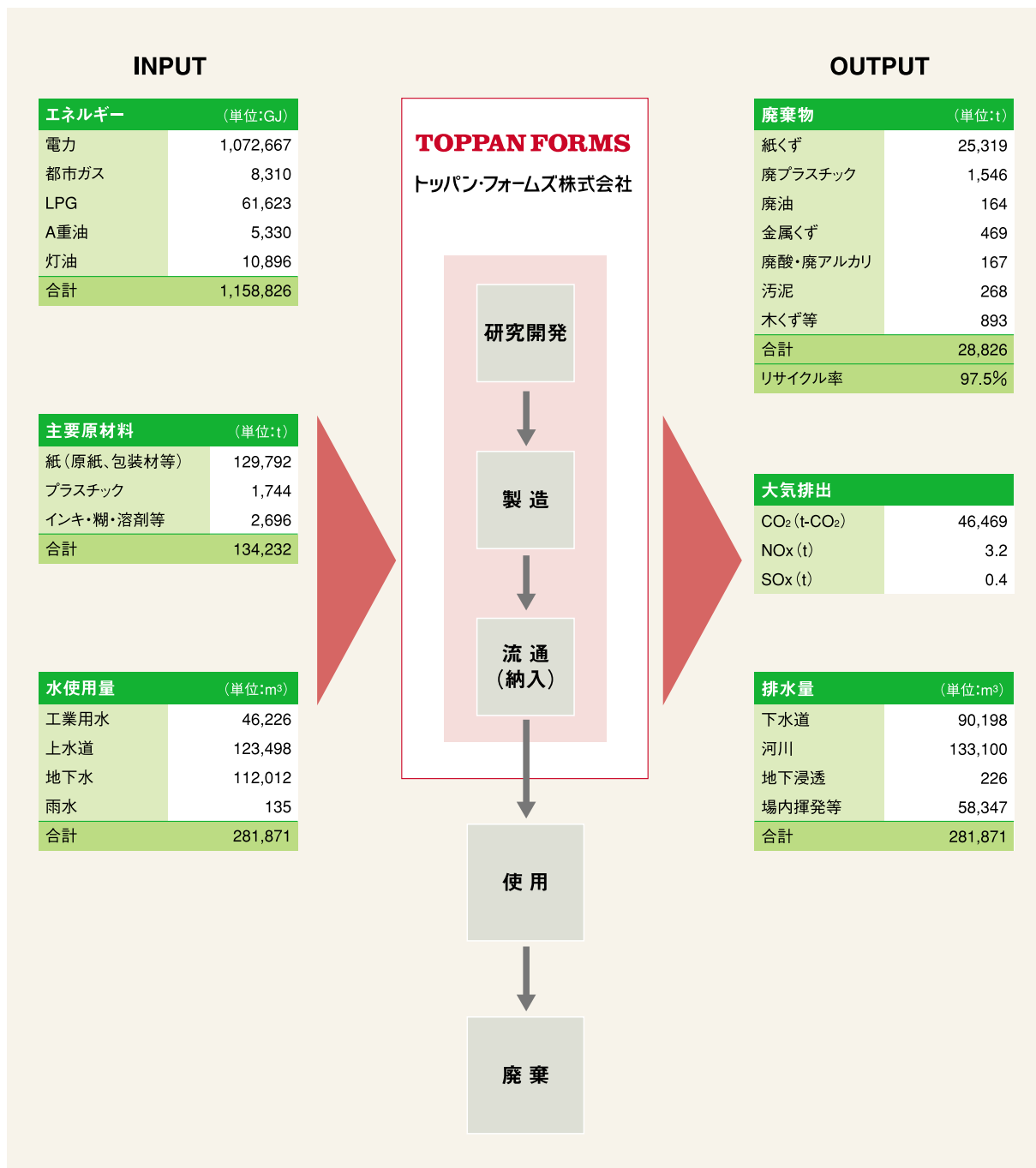
中期目標	2008年度環境目標	具体的施策
地球温暖化防止		
CO ₂ 排出量原単位（CO ₂ 排出量／生産高）を2010年度までに2003年度比11%削減	CO ₂ 排出量原単位を2007年度比2.3%削減	生産効率の向上、省エネ設備への切替などによるエネルギー使用量の削減、空調・照明などの電力使用量削減
廃棄物削減とリサイクル推進		
廃棄物排出量原単位（廃棄物排出量／生産高）を2010年度までに2003年度比15%削減	廃棄物排出量原単位を2007年度比2%削減	原材料投入量の削減、損紙の低減
廃棄物最終埋立量を2010年度までに2003年度比70%削減	廃棄物最終埋立量を2007年度比10%削減	最終的に埋立処分となる廃棄物排出量の削減、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定
当社グループでゼロエミッションを2010年度までに達成（ゼロエミッション＝廃棄物リサイクル率98%以上）	廃棄物リサイクル率97.7%	再生・再資源化していない廃棄物排出量の削減、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定
化学物質管理		
PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2010年度までに2003年度比60%削減	PRTR法第一種指定化学物質の使用量を2007年度比5%削減	対象化学物質を含有した資材の使用量削減、対象化学物質の低含有または非含有資材への切替
環境配慮型製品の開発と販売強化		
環境配慮型製品の開発と販売促進活動の推進	環境配慮型製品販売額を2007年度比10%増加	認定基準を満たす製品の開発、販売活動の推進
グリーン調達		
グリーン調達の推進	グリーン調達基準に基づき推進	グリーン調達基準に基づき実施
環境コミュニケーションの促進		
情報公開の促進	環境報告書の発行	環境報告書の発行
社会貢献の推進		
社会活動に参加し、環境保全に積極的に貢献	地域の環境保全活動への参加	事業所ごとの環境保全活動への参加
環境マネジメント		
海外生産事業所における環境保全活動の積極的推進	現地における環境保全活動の推進	環境影響調査の実施
法規制を包含した適切な社内管理基準の設定と遵守	生産事業所における管理基準の遵守 ⇒社内環境監査による確認	社内環境監査による確認 電子マニフェスト化の推進

マテリアルバランスと環境影響

当社グループの事業活動と環境にかかわる物質移動の状況を図に示します。

製造時に使用するエネルギーは、電力の割合が高く全体の92.6%を占めています。

また、廃棄物の87.8%は紙くずが占めていますが、紙くずの大部分はリサイクルされています。廃棄物全体のリサイクル率は97.5%となっています。



※ 電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。

※ CO₂排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量換算方法ガイドライン(平成15年)」に基づき算出しています。なお、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(平成20年)」に基づき算出した場合、2007年度のCO₂排出量は48,279(t-CO₂)となります。

※ データの集計範囲については、本冊子冒頭の「報告対象範囲(集計範囲)」を参照してください。

環境に配慮した製品・サービス

当社は、4Rの実践をテーマに環境配慮型素材を活用した製品やサービスを提供しています。

トッパンフォームズの環境配慮型製品・サービス

製品群	Reduce	Reuse	Recycle	Return
ストックフォーム			<ul style="list-style-type: none"> ・統一伝票（大豆油インキ使用） ・ストックフォーム（大豆油インキ使用） 	
メーリングフォーム（ハガキ）	<ul style="list-style-type: none"> ・POSTEX ・隠蔽シール付ハガキ 	<ul style="list-style-type: none"> ・POSTEX-Ⅲ ECO100 	<ul style="list-style-type: none"> ・隠蔽シール付ハガキ 	
メーリングフォーム（封書）	<ul style="list-style-type: none"> ・eco封筒（バガス） ・メールワン・シングル/マルチ ・シーリングフォーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・eco封筒（再生紙） ・eco封筒（再生OPS、再生PET） 	<ul style="list-style-type: none"> ・eco封筒（窓素材に再生可能グラシン紙使用） ・メールワン・シングル/マルチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・eco封筒（窓素材に生分解性フィルム使用） ・わんぱ☆くめ〜 エコ（封筒素材に生分解性フィルム使用）
運輸伝票	<ul style="list-style-type: none"> ・EXフォーム 			
タック/ラベルフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・Qstix ・両面NIPタック ・部分タックフォーム ・駐輪ラベル ・両面サーマルラベル 		<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能はく離紙使用タックフォーム ・ゴミラベル（再生可能はく離紙使用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生分解性フィルムタック
セキュリティフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントリックフォーム 			
リライトカード		<ul style="list-style-type: none"> ・ファインリライトカード 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・超軽量カラー冊子 ・パンフダイレクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生紙サーマルロール ・プロセス印刷物（再生紙使用） ・トナーカートリッジ・リサイクルサービス ・IGエコラベル 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス印刷物（大豆油UVインキ使用） ・文書リサイクル処理サービス 	

※ POSTEX、わんぱ☆くめ〜、Qstix、メールワン、ポイントリック、ファインリライト、パンフダイレクト、O-TASCARRYはトッパン・フォームズ（株）の登録商標です。

FSC COC認証の取得

トッパンフォームズは、2006年8月にFSC COC認証（認証番号SA-COC-1571）を取得しました。

多くのお客様にFSCロゴマークが入った製品を提供できるように認証事業所の拡大を進めています。

FSCロゴマークの入った製品を普及させていくことは、健全な森林の育成を支援し、森を守ることに繋がります。また、企業の環境問題への取り組みを対外的にアピールできるものと考えています。

当社グループは、持続可能な社会を実現するために、今後もお客様への積極的な環境配慮型製品の提案を行ってまいります。



FSC COC認証は、FSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）の原則と基準に基づき、適切に管理された森林（Forest Management認証）から伐り出された木材が、加工・流通の段階において他の木材と混ざることなく管理されていることを認証（Chain of Custody認証）する制度です。

■ POSTEX-Ⅲ ECO100 (Wピール)

再生紙を使用したフルカラー対応の圧着ハガキです。開封面はフィルムと同等の光沢を持ちながら、フィルムと異なり簡単に破棄できるため、個人データの流出が防げます。また、用紙は古紙として再利用可能です。



POSTEX-Ⅲ ECO100

■ eco封筒

封筒本体に森林認証紙、窓部分に生分解性プラスチック、印刷には大豆油インキを使用している製品をはじめ、省資源かつ環境に配慮した素材を使用した各種製品を取り揃えています。



eco封筒

■ EXフォーム

従来、運輸関連の伝票は5枚～8枚程度の複数枚の複写用紙から成り立っており、配送の各段階で切り取ることで受け渡しの確認を行っていました。しかし、バーコードを使った物流管理によって送り状と判取片の2枚があれば確認ができるようになったため、当社では疑似1枚化を図り、紙使用量を削減しました。



EXフォーム

■ ICエコラベル

UHF帯の導入に伴い、今後更なる普及が期待されるICラベル製品は、その表面基材にフィルムや石油を原料とした合成紙を使用しています。本製品はこれらの部材を再生PET合成紙・再生上質紙に置き換え、石油や森林資源の使用量を削減しています。



ICエコラベル

■ Qstix

ラベルからはく離紙をなくしたロール状のラベルです。はく離紙がないので、ラベル使用時にゴミが発生しません。ミシン目から一枚ずつ切り離すことができ、使いやすさも考慮しています。



Qstix

■ 両面サーマルラベル

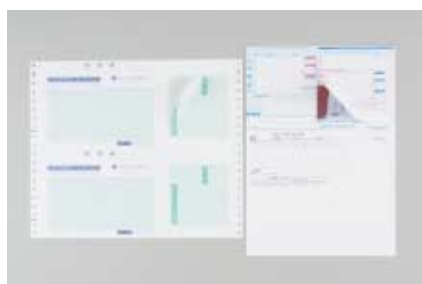
両面サーマルプリンタを使い、表裏を一度に印字できるサーマルラベルです。糊とシリコンの特殊加工により、ラベルと伝票の一体化や両面ラベルとして使用可能です。はく離紙がないため、ゴミが出ない環境にやさしいラベルです。



両面サーマルラベル

■ 部分タックフォーム

必要な部分だけに糊加工を施しているため、ゴミとなるはく離紙を減らすことができます。また伝票とラベルを一体化したことでプリントのマッチングミスがありません。



部分タックフォーム

■ わんぱ☆くめ〜る エコ

生分解性プラスチックフィルムを使用したラッピング型封筒です。コンポストなどで処理すると分解し、自然に還ります。



わんぱ☆くめ〜る エコ

■ 隠蔽シール付ハガキ

大切な情報をお守りするシールと、返信用のハガキが一体化した製品です。すべて再生が可能な素材を使用しています。



隠蔽シール付ハガキ

■ パンフダイレクト

郵送する冊子をとめるシールと宛名のシールのみで構成された郵送物です。冊子以外の部材が、従来の封筒形態と比較して9割削減できます。さらに、シールはきれいにはがすことができ、個人情報保護の宛名処理も簡単に行えます。



パンフダイレクト

■ 脱墨性向上UVインキ

速乾性やプリンタでの印字適性を求められるビジネスフォーム用のインキとして、業界で初めてエコマーク認定を取得した脱墨性に優れた紫外線硬化型のインキです。入出力フォームなどに使用しています。



脱墨性向上UVインキ

■ 超軽量カラー冊子

33 g/m²の超軽量の印刷用紙を使用したカラー印刷対応の小冊子です。森林資源の節約が可能です。製本は金属類を使用しない糊綴じです。



超軽量カラー冊子

■ オータスカリ

オートスカリ(O-TASCARRY)は、トッパンフォームズが提供するオフィス用品調達システムです。インターネットを利用してオフィスに必要な消耗品全般を販売します。

同システムでは、「グリーン購入法適合」や「GPN*データベース掲載(エコ商品ねっと)」などをキーワードにして、エコ製品を検索し購入することができます。

また、オートスカリカタログもエコ製品を中心に掲載しており、グリーン購入を推進しています。

* GPN (Green Purchasing Network) : グリーン購入ネットワーク



オートスカリ カタログ

■ 文書リサイクル処理サービス

機密文書や保管期間の過ぎた大量の書類を、安全・確実に廃棄するとともに、リサイクルも行うサービスです。お客様ごとに異なる要望に対処するため、4つのメニューを用意しています(サービス範囲:1都3県)。

①出張シュレッダー方式

シュレッダーを搭載した専用トラックが指定の場所に伺い、作業員がその場で破碎します。そのくずを持ち帰り、リサイクル処理をします。

②シュレッダーレンタル方式

シュレッダーをレンタルします。破碎くずを回収し、リサイクルします。

③専用ボックス処理方式

回収用のダンボールが入る鍵付きの専用ボックスを購入していただき、投入された書類ごと回収し、破碎・溶解リサイクル処理をします。

④一括処理方式

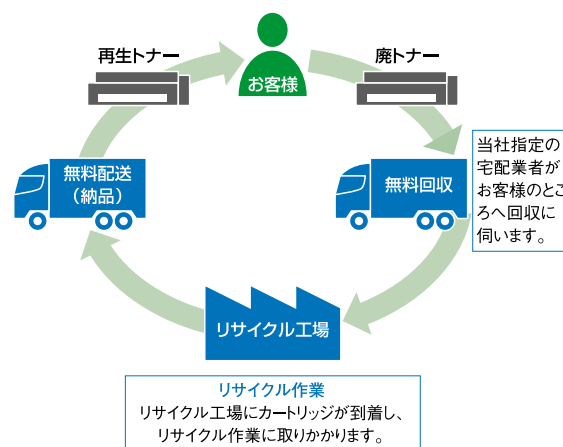
専用のトラックで一括回収し、破碎・溶解リサイクル処理をします。

文書は溶解処理した後、トイレットペーパーやダンボール原紙などに生まれ変わり、循環型社会構築に貢献します。

■ トナーカートリッジ・リサイクルサービス

お客様から回収した廃トナーカートリッジを再生して、再びお客様のところへお届けするサービスです。自ら使用していたカートリッジなので、カートリッジ寿命を把握でき、効率的なカートリッジ利用ができます。コスト面でも新品カートリッジに買い換える場合に比べて、最大70%のコスト削減になります。

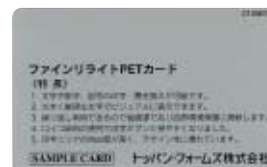
廃棄物の発生を抑制するだけでなく、最終的に寿命を迎えたカートリッジについてもリサイクルされます。



■ ファインリライトカード

プラスチックカードに繰り返し印字・書き換えできるリライト層を設けたカードです。専用リーダーライターで500回以上印字・書き換え可能です。繰り返し使用できるので、カードを大量に消費することがなく、省資源につながります。

磁気カードやICカードにも対応可能です。



研究・開発

環境配慮型製品の開発

トッパンフォームズでは、3RにReturn（還る）を加えた「4R」の実践に取り組んでいます。

- Reduce（減らす）
- Reuse（再使用する）
- Recycle（再資源化する）
- Return（自然に還る）

開発製品一つ一つに関して環境貢献度を評価

研究開発の結果として誕生するすべての開発製品に関して、環境への貢献度を評価し、環境貢献度が高い開発製品を生み出すテーマを優先的に実行しました。

その結果2007年度は、10以上の最優先テーマで環境目標を達成しました。

研究開発における環境に配慮した新技術

インクジェットプリンタ設備の開発

熱転写方式と比較し、インクリボンを必要とせず、廃インクリボンが発生させないインクジェットプリンタ設備の開発に成功しました。また、インクジェットのインクは、第一種・第二種有機溶剤およびPRTR法対象物質を使用していません。

ICラベル製造における品質保証体制構築

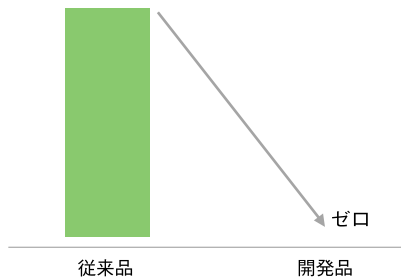
ICラベル製造における独自の品質保証システムを構築しました。このシステムにより、不具合発生箇所の特定制と改善が容易になり、トータル不良品率を従来比約4分の1に低減しました。不良品率の低減は、廃棄物量の削減（従来の4分の1）、予備投入材料の削減（従来の4分の1）、稼働時間短縮による消費エネルギー量（電力など）の削減に貢献しています。

研究・開発分野における環境配慮項目（例）

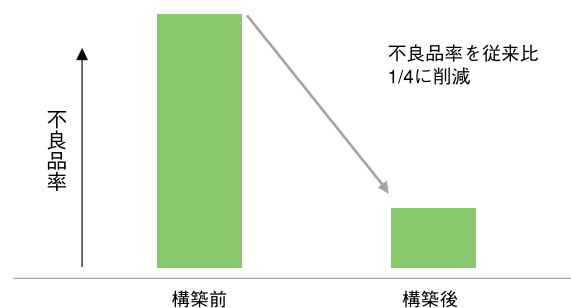
設備
装置の高効率化によるエネルギー削減 装置の高精度化による材料の有効利用 品質チェック機能強化による廃棄物削減
材料
PRTR指定化学物質の使用量削減 塗工材の基材への固着形成エネルギーの削減 リサイクル材料、生分解性材料の利用推進
製品
オンライン生産推進による輸送エネルギー削減 小型・薄型化による使用材料削減 省エネ設計による使用エネルギー削減

廃インクリボンの発生に関する比較

幅90mm×300mm×500巻



品質保証体制構築による不良品率の低減



環境パフォーマンス

地球温暖化への対応と省エネルギー

地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素 (CO₂) の排出を抑制するため、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

当社のエネルギー使用量の92.6%は電力です。電力使用量を節減するため、生産時使用電力の節減、空調・照明電力の節減などの取り組みを実施しています。

2007年度は前年度に比べ、エネルギー使用量原単位を2.1%削減しましたが、エネルギー使用量は増加しています。今後も省エネルギー活動を進めるとともに、設備更新にともなう省エネルギー型設備への転換などを通じて、エネルギー使用量削減を目指します。

水の使用状況

生産事業所で使用する水は、地下水と水道水です。主に生活用水、空調冷房機や印刷機の冷却用水として使用しています。

化学物質管理

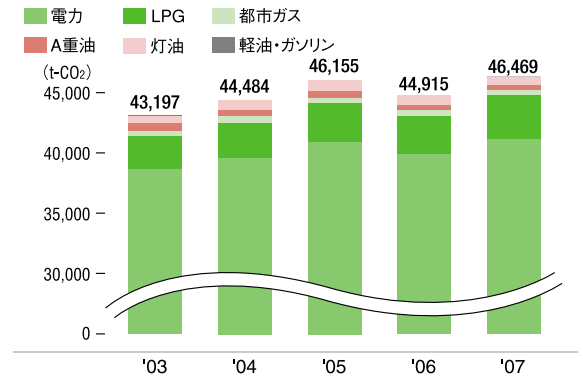
当社グループでは「化学物質管理マニュアル」に基づき、使用している化学物質を把握して適正に管理しています。新規材料を導入する際は、MSDS*などの情報に基づいた導入評価を行っています。環境目標達成に向けた代替品の検討などを継続的に進めています。

2007年度は洗浄剤などの代替品変更により、PRTR法第一種指定化学物質の使用量を37.8%削減しました。

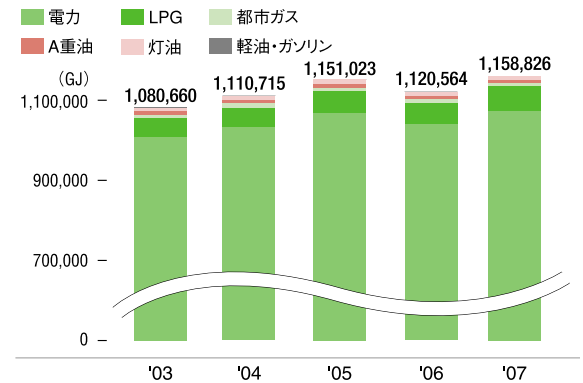
なお、当社グループのPRTR法に基づく届出事業所は川本工場とTFT静岡工場の2工場です。

* MSDS (Material Safety Data Sheet) : 化学物質の性状および取り扱いに関する情報

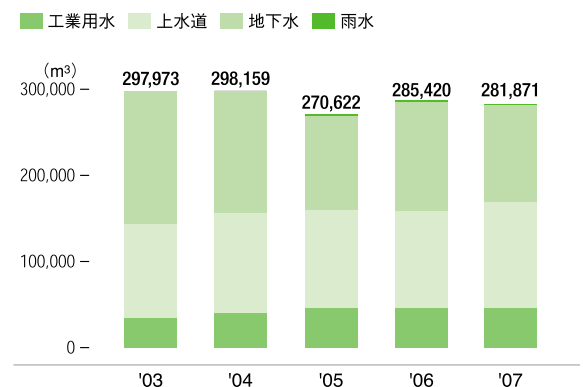
CO₂排出量



エネルギー使用量



水使用量



※ 電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。
 ※ 都市ガスのエネルギー使用量およびCO₂排出量は、2003年度にさかのぼり使用量を標準状態に換算して算出しています。
 ※ CO₂排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量換算方法ガイドライン (平成15年)」に基づき算出しています。
 ※ データの集計範囲を2006年度にさかのぼり追加修正したことで、エネルギー使用量、CO₂排出量、廃棄物発生量が増えています。

廃棄物処理および低減対策

当社グループから排出される廃棄物は、紙くずが87.8%を占めており、紙くず削減が重要なテーマとなっています。各生産事業所では、紙くずを削減するための取り組みとして、生産工程で発生する損紙の低減などを実施しています。

2007年度は廃棄物排出量原単位で0.8%削減することができましたが、廃棄物排出量では増加しています。紙くずのほとんどが再生または再資源化されています。廃棄物全体のリサイクル率向上のため、分別の徹底、再資源化できるパートナーの選定などに努めています。

各生産事業所では、資源の有効利用を目的としたゼロエミッション*の実現に取り組んでいます。2007年度は、日野工場、福生工場、川本工場、八戸工場、新潟工場、辰巳センター、TFK神戸工場、TFT（浜松工場、静岡工場、名古屋工場）、TFN（本社、九州工場）、北海道トップフォームズ、TFP本社、TFS（所沢センター、厚木センター）の16生産事業所で達成しました。

* ゼロエミッション＝リサイクル（再生・再資源化）率98%以上

損紙低減による廃棄物削減

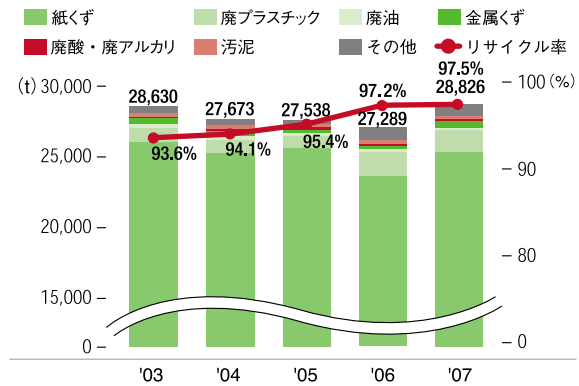
製造担当役員が管轄する損紙低減に関する全社プロジェクトを立ち上げて、損紙低減による廃棄物排出量の削減活動を推進しています。定期的に会議を開催し、現状把握、問題点の抽出、改善策の立案をして各製造拠点で実施しています。

現場では、標語掲示や実績掲示など従業員への啓発と具体的な施策の実施により損紙率の低減につなげることができました。さらなる損紙低減に向け、継続した活動を行っています。

生ゴミ処理機の導入

日野工場では、社員食堂から毎日発生する生ゴミを処理する生ゴミ処理機を導入しました。今までは発生した生ゴミを収集運搬後に焼却処理し、焼却残渣は埋め立て

廃棄物発生量とリサイクル率



紙くずの荷姿（日野工場）



紙くずの分別状況（日野工場）

ていましたが、生ゴミ処理機の導入により、発生した生ゴミは分解処理され、CO₂排出量は焼却処理時に比べて約50%削減できました。

排水・排出ガス管理

一部の生産事業所では法令または自主基準に基づき、排水のBOD（生物化学的酸素要求量）やCOD（化学的酸素要求量）などを測定、監視しています。

また、ボイラーから出る排出ガスについても同様にNOx、SOxを測定し、監視しています。

水質汚濁物質排出量（負荷量） （単位：kg）

物質名	排出量（負荷量）
BOD	3,265
COD	2,629
窒素	1,881
リン	292

※ 各排出量は排水量および平均値濃度から算出
 ※ 集計範囲は日野工場、福生工場、川本工場、中央研究所、TFT（浜松工場・静岡工場・名古屋工場）、TFK（大阪工場・摂津工場・神戸工場）、TFN九州工場、TFS所沢センター

騒音・振動の低減

当社グループの生産事業所では、騒音や振動について法令を遵守した監視測定を行っています。

TFS所沢センターでは、2006年度に続きフォークリフトにブザー音量調節器を取り付けました。また、従業員への教育を行い、騒音の低減と安全の確保を両立させた作業を行っています。

物流における環境配慮

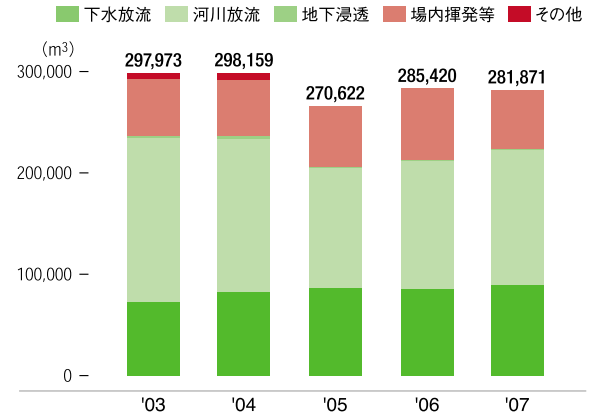
輸送における環境対応

当社グループの物流全般は、協力会社に委託しております。物流における主な環境負荷要因は、燃料使用による資源の消費と排出ガスによる大気汚染、地球温暖化です。その対策として、天然ガスを燃料としたCNGトラックへの切り替えを、2007年度は1台実施しました。また、ドライブレコーダーを装備したトラックによるエコドライブを推進しています。全国の拠点物流センターでは、継続した「アイドリングストップ運動」を実施しており、ポスターの掲示やドライバーへの定期的な教育を行っています。

構内作業における環境対応

構内作業の主役、フォークリフトはすべてバッテリー車またはLPG車に切り替えました。また分別ポスターを掲示し、廃棄物となるダンボールなどのリサイクルを推進しています。

排水量



※ 2005年より、「その他」の部分は「場内揮発等」の中に含まれます



フォークリフトのブザー音量調節器



CNGトラック



ドライブレコーダー

グリーン調達・購入

グリーン調達

当社グループでは、2004年4月から日本印刷産業連合会の「オフセット印刷サービス」グリーン基準に準拠したグリーン調達を行っています。2007年度は用紙の基準適

合率が11.3%でした。今後もより環境負荷の少ない資材の使用を推進していきます。

グリーン調達原則と基準

グリーン原則	グリーン基準		
	水準 1	水準 2	
用紙	再生循環資源を利用した紙の使用	古紙パルプ配合率100%、または古紙パルプ配合率70%以上で残りが森林認証パルプ	古紙パルプ配合率70%以上または森林認証紙、非木材紙、間伐材紙
	白色度の考慮	非塗工紙は白色度70%程度以下 (+4%まで)	非塗工紙は白色度80%程度以下 (+4%まで)
	塗工量の考慮	塗工量12g/m ² 以下 (片面では最大8g/m ² 以下)	塗工量30g/m ² 以下 (片面では最大17g/m ² 以下)
	塩素ガスを使用しないパルプの使用	漂白工程で塩素ガス(Cl ₂)不使用のECF漂白パルプ100%	
	有害物質の非含有	着色剤には別表*1のアミンが生成する可能性のあるアゾ着色剤は使用しないこと	別表のアミンが製品1kg当たり30mgを超過して検出されないこと
	古紙再生阻害要因の改善に配慮	「古紙リサイクル適性ランクリスト*2」のB、C、Dランクの資材を使用しないこと	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のC、Dランクの資材を使用しないこと
	再生紙の製造に積極的に取り組んでいる企業からの調達	古紙を再生紙原料として積極的に受け入れている企業から調達すること	
オフセットインキ	人体に危害を及ぼす物質の不使用	印刷インキ工業連合会のNL規制に適合すること	
	有害物質発生の原因となる物質の不使用	塩素系樹脂を使用していないこと	
	PRTR指定化学物質の考慮	PRTR指定物質を使用していないこと	PRTR指定物質を特定していること (MSDSを備えている)
	VOC発生の抑制	VOC含有量1%未満 (ノンVOCインキ) 但し輪転インキは除く	VOC含有量15%未満 (低VOCインキ) または大豆油インキ
	古紙再生阻害要因の改善に配慮	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のB、C、Dランクの資材を使用しないこと	「古紙リサイクル適性ランクリスト」のC、Dランクの資材を使用しないこと
その他資材	日本印刷産業連合会「オフセット印刷サービス」グリーン基準に準拠し設定		

*1、*2の詳細については、日本印刷産業連合会「オフセット印刷サービス」グリーン基準をご参照ください。

グリーン購入

2000年10月にグリーン購入の指針となる「グリーン購入基本方針・原則」を策定し、グリーン購入を全社的に推進しています。

グリーン購入のポイント

- ・ **OA用紙等**
古紙パルプ配合率が70%以上であり、白色度が80%以下であること
- ・ **OA機器**
電力消費量が少ないこと
リサイクル設計がなされていること
トナーカートリッジが回収・リサイクルされること
- ・ **文具事務用品**
再生材料を多く使用していること
消耗品を交換、補充できること
- ・ **トイレトペーパー**
古紙パルプ配合率100%であり、白色度80%以下であること
芯なしタイプでシングル巻きであること

環境コミュニケーション

地域とのコミュニケーション

清掃活動

事業所周辺や地域自治体の清掃活動に参加し、地域社会の一員として地域の環境美化に貢献しています。

地域協議会等への参加

各事業所では、地域の協議会などに積極的に参加し、地域とのコミュニケーションに努めています。

苦情への対応

各事業所では、周辺住民の皆様から寄せられる苦情などに対して迅速に対応し、十分な説明責任を果たせるよう努めています。

Kids' ISO(キッズ・アイエスオー)への協力

当社は、東京都が小学生のために行っている「キッズISO14000プログラムの普及事業」に協力しています。「キッズISO14000プログラム」は、国際芸術技術協力機構(ArTech)が開発し、国内および国際的に展開している子供のための環境教育プログラムです。

「緑の募金」自動販売機の利用で森林づくりに参加

大阪工場では、自動販売機の収益の一部を寄付する「緑の募金」自動販売機を2台設置しました。環境への意識付けに役立ち、商品の購買を通じて地球環境を救う森林づくりに参加できるため多くの利用がありました。2007年度一年間で、杉の苗木472本分の募金に達しました。

地域イベントの開催

当社グループでは、事業所ごとに開催している夏祭りなどのイベントを活用して、地域とのコミュニケーションを図っています。

TFK大阪工場は、2007年7月28日に大阪工場前庭にてTFKビール祭りを開催しました。従業員、ファミリー会社関係者、地元関係者、周辺住民など550人を超える参加者で賑わい、地域の方々との楽しい一時が過ぎました。

TFT浜松工場は、2007年8月4日に工場棟西側の芝生広場で夏祭りを開催しました。協力会社を含めた従業員や近隣住民など多くの方が参加し、地域の方々とのコミュニケーションを図ることができたいへん好評でした。

2007年度地域環境保全活動への参加実績

事業所名	内容
日野工場	日野市一斉清掃活動に参加(2007/11/20)
福生工場・TFCP製造部	福生市環境フェスティバル参加(2007/6/3)多摩川河川敷の清掃実施
川本工場	深谷市のゴミゼロ運動に参加(2007/5/27、11/25)
仙台センター	工業団地隣接企業とともに環境整備(下草の除去)
EPSセンター	センター周辺の枯葉清掃および道路脇の除草
TFT浜松工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFT静岡工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFTメディア工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFT名古屋工場	工場周辺の美化活動(月1回)
TFK大阪工場	・町行政:島本町地下水利用対策協議会 地下水の利用ならびに管理を行い、町に定期報告する ・水保存:名水百選「離宮の水」の保存活動
TFK摂津工場	工場周辺の清掃活動(月1回)
TFK神戸工場	工業団地内クリーン作戦(清掃作業)に参加(年2回)
TFN九州工場	東部商店会「花いっぱい運動」に参加
北海道TF	工場周辺歩道の清掃(年6回) 花トピア活動に参加
香川BF	自治会主催の近隣一斉清掃に参加(2007/12/2)
沖縄BF	隣接舗道の植栽樹の剪定および除草実施



日野市主催の市内一斉清掃(日野工場)



TFKビール祭り(TFK大阪工場)

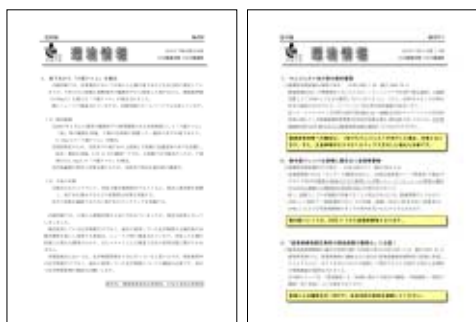


夏祭り(TFT浜松工場)

社内コミュニケーション

社内報を通じた啓発

社内広報誌「友美（ともみ）」への環境に関する記事の掲載、「環境情報」への法改正やその他環境に関する情報の掲載により、社員の環境意識の啓発に努めています。



「環境情報」



社内広報誌「友美」

社外コミュニケーション

社外への情報開示

当社は、2004年に初めて環境報告書を作成し、毎年継続的に発行しています。また、より多くの方々にご覧いただくため、当社ホームページにも環境報告書を公開しています。今後も引き続き情報開示に努めていきます。

環境報告書URL <http://www.toppan-f.co.jp/kankyout.html>



環境報告書2007

「エコプロダクツ2007」への出展

当社は、2007年12月13日～15日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2007」（主催：社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社）に出展しました。

当社の環境配慮型製品である「パンフダイレクト」、 「わんぱ☆くめーるエコ」、 「Qstix」や「リライトシステム」などを展示し、生活まわりで見かける製品に多くのエコ製品があることを理解していただきました。

また、来場者がクリスマスカードにメッセージを書き、その場で圧着してポップアップカード（封書）を作成できるイベントのコーナーは、大人から子供まで多くの方に参加していただきたいへん好評でした。



「エコプロダクツ2007」の様様



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

トッパン・フォームズ株式会社

〒105-8311 東京都港区東新橋1-7-3 TEL：03-6253-6000 (ダイヤル案内)

お問い合わせ

ISO推進部 TEL：03-6253-6105

広報室 TEL：03-6253-5730

